## ◆大黒さま (だいこくさま)

大黒さまは元々、インドのヒンズー教の「シヴァ」という名の「破壊神」です。その名前の意味は「おめでたい前ぶれ」という意味ですが、一度怒ると額にある第三の目から超高熱の炎を噴射し、世界を焼き尽くしてしまいます。しかし、単なる暴虐な破壊神ではなく、さまざまな顔と能力を持つ変化神でもあるのです。

暴風雨ですべてをなぎ倒すのも、豊穣の神となって恵みをもたらすのも、翼の生えた獅子となって大空を飛ぶのも、太陽と月の戦車で悪魔城を破壊するのも、ガンジス川の流れを止めるのも、すべて変身したシヴァです。

その変身した一つの姿が「マハーカーラ」という神さまです。 その姿は、人の血をすする恐ろしい様相ですが、それでもヒンズ 一教では「死後の世界の盟主」「戦の神」そして「財福の神」と 様々な肩書きがありました。





そのマハーカーラが仏教に取り入れられると、仏法の護り神「摩訶伽羅天(まかからてん)」と改名します。「摩訶」は巨大、「伽羅」は暗黒を意味することから「大暗黒天」、つまり巨大なる暗黒神という不気味な神になりました。

インドから中国を経由して日本へ伝わると、この暗 黒神(摩訶伽羅天)は日本古来の豊穣の神「大国主命 (おおくにぬしのみこと)」と合体することになりま す。

「大黒(だいこく)」と「大国(だいこく)」が同じ読み方というのが理由のひとつです。響きが通ずるため、しだいに一体視されるようになりました。また、大国主命は袋を担いだ姿で表されることが多かったため、日本での大黒天はインドのマハーカーラのような荒々しい形相ではなく、大国主命に寄せた袋を担ぐ姿で表されるようになっていきました。

こうして暗黒神は、純和風の太平楽な神に生れ変わります。ヒンズー教と仏教と日本神話が合体したハイブリットな神さまで、福と笑いを届け続ける神さま。それが大黒さまなのです。

では、なぜ日蓮宗で大黒様が祀られているのでしょうか?

大黒さまは、左手に宝の袋、右手に槌を持って、柔和でいつも笑みを絶やさず、愚痴や不平不満を口に出さず、慈しみの眼で世の中を見て、槌が怠ける心や邪魔を打ち砕き、宝の袋から福が飛び出してきます。その姿は「福」(心の幸せ)「禄」(金銭の満足)「寿」(長寿と健康) の功徳を示しています。いつの時代でも人々が幸せや福徳を求める気持ちは変わりません。特に商家の方々からの信仰を集めています。

日蓮大聖人がご信者さんに宛てたお手紙には、

「福徳が欲しいのであれば、毎日大黒さまにお供物やお酒やお水を上げて、法華経を声に出して読み、お題目を一生懸命唱えなさい。特に大黒さまのご縁日の甲子(きのえね)の日(60日周期)この日は普段以上に大黒さまを大事にしなさい」と記されました。

日蓮宗大荒行堂では、三回目の修行を終えた行僧に「大黒さまの福徳を授ける秘法」が伝授されます。こうして、福の神さまとして各地の日蓮宗のお寺で大黒さまが祀られるようになりました。

※大荒行については「鬼子母神さま」のご案内に掲示してあります



## ◆現在の経王寺の大黒さまについて

さて、経王寺には元々、真っ黒な大黒さまがいらっしゃいました。

平成22年(2010)、汚れと劣化がひどくなったこの大黒さまを修復することになりました。全体に塗られていた漆をはがすと、驚くことに大黒さまには、無数の釘が打ち込まれていたのです!なんと「福を授けないともっと釘を打ち込むぞ!」と、本当に大黒さまに釘を打ち込む「恨み大黒」だということがわかりました。(絶対にやってはいけないことです)

どれだけ大黒さまは苦しかったでしょうか。お詫びのお経をひたすらに上げました。

身も心もすっかりキレイになった大黒さま。すると、住職に「荒行堂に入って大黒天の秘伝を授かってきなさい。そのためには本体となる"親大黒"が必要です。そしてこのお寺の親大黒は私ではありません。相応しい大黒を授けましょう」という霊示を授けま



す。住職は、さっそく何人もの仏師(仏像を作る職人さん)のところへ赴きましたが、大きさが違ったり、顔の形に納得ができません。困っているところに仏具屋さんが、ある職人さんを探してくれました。京都の「松久宗琳佛所」の松久佳遊さんです。

完成するとなんともふくよかで優しい顔の大黒さまができあがりました。平成23年(2011)に、住職が三回目の荒行に入ります。その際に、大黒さまも荒行堂へお連れしてたくさんのお経をいただいてきました。その証拠に大黒さまの宝袋には、「平成23年に間違いなく荒行堂でお経を上げました」と書き記されてます。

大黒さまのご利益は確かなものです。大黒さまを新た

にお作りしてから、お寺も徐々にキレイになりました。もちろんお寺を大切にしてくれる檀信徒の皆さまのお陰ですが、おー人お一人が栄えないと、お寺もキレイにはなりません。

ぜひ、この大黒さまにお題目をお唱えし、願い事をお伝えください。素直に・まじめに・真剣に信仰すれば、必ず福徳をいただけます。

そうそう、元々あった黒い大黒さまはというと、普段は寺務所にお祀りして、皆さまの前には60日に一度だけ登場します。

こちらの大黒さまも御利益抜群かもしれませんね。

経王寺 第十二世 山主 松井義宣



